

# 地域住民向け夜間 I T 講座の実施とその結果

The Execution and Result of IT-course at nighttime for local populace

関西国際大学 山下 泰生

Kansai University of International Studies

Yasuo YAMASHITA

## 1. はじめに

関西国際大学（以下本学）では、その前身の関西女学院短期大学時代より、公開講座の一環として、本学のパソコン教室を利用したパソコン講座を開講している。

しかし、それらは2～3回の短期の講座で、土曜日の午後の時間帯で行ってきた。

平成15年に、初めて、全12回で、しかも平日の夜に実施する形態のパソコン講座（これをイブニング講座と呼んでいる）を実施し、平成16年も引き続き実施した。平成16年版は、15年版の実績から、若干やり方を見直した点がある。

このIT講座を通して「比較的高年令層の人たちもITに対する関心が高い」ということが確認できた。その点も含め、地域住民向けのIT講座のあり方について整理し、報告する。

## 2. IT講座の受講者の時代的変容

過去のIT関連のパソコン講座は、主に、夏と冬の時期に土曜日の午後に3回程度（原則は連続）、開催していた。講座の内容は、年によって異なった場合もあるが、パソコン入門（Windows基礎）、ワープロ入門（日本語入力を中心）、インターネット（WWW検索）、はがき作成（冬期年賀状）が大半を占めていた。

受講者の年齢層は、かなり幅広いが、基本的に初心者向け講座として実施していた。ところが、過去の講座と対比すると最近の受講者の年齢層が中高年層に集中してきている傾向が顕著になってきた。6～7年前の講座には10代の受講者も少なからず存在したが、ここ2～3年は、30代以上の受講者が大半を占めている状況となっている。

データの裏付けはとっていないが、家庭へのパソコンの普及が進み、小学校・中学校・高等学校での授業でもパソコンの利用が進んできていることが、10代のIT講座受講者の減少を招いている、というとは容易に想像できる。つまり、学校でも自宅でもパソコンが使える環境にあれば、あえて基礎的なIT講座を受講する必要性はあまりない、という

ことである。若年層の受講者数は減少してきているが、逆に中高年層の受講申し込みは増加しているため、講座全体としての受講申し込み数は増加傾向にある。

また、講座最後での質問内容も時代とともに変わってきている。5～6年前頃の主な質問は「パソコンを購入したいが、どのメーカーのパソコンを購入すればよいか？」という内容が多数であった。それが、2～3年前頃の主な質問は「自宅でインターネットを利用するにはどうすればよいか？」という内容と変わってきている。そして、最近では「自宅にパソコンはあるがどう使えばよいかわからない」という内容に変わってきている。

様々な統計データで、「パソコン普及率」や「インターネット利用者数」が指数オーダ的に増加していることを見聞きするが、実際に講座を受講する中高年齢層の方の生の声を聞くと、利用者の数だけではなく年齢層も確実に広がっているこいを実感する。

### 3. IT イブニング講座の実施

#### (1) 初めての夜間 IT 講座（平成 15 年度イブニング講座）と問題点

以前からの受講者の要望もあり、平成 15 年の秋に初めて夜間の講座を「イブニング講座」と称して行った。しかも週 1 回で全 12 回という長期間に渡る講座として開講された。

厳密な受講条件は課してはいなかったが、一応「パソコンの基本操作が出来る方を対象とする」と案内には記載した。また、夜間開講という初めての試みではあったが、案内は特別なものではなく、他の講座と同じレベルでの案内であった。それでも、定員を越す応募があり、需要の多さが感じられた。

一般の人を対象とする IT 講座の問題は、受講者のパソコン操作に関するレベルの違い、および、そのレベルの違いによる講座に対する要求水準の違いにある。

「パソコンの基本操作ができる」といっても、その絶対的な指標を設定することは困難である。また、かなりのレベルの違いがあっても、短期間の講座であれば、講座の初めに想定しているレベルを明確にすることにより、受講者は納得し、それほど大きな問題とはならない。しかし、長期間の講座の場合、同じように想定レベルを明示しても、レベルの違いの問題は回を重ねるごとに顕著になってくる。

また、昼間の講座の場合、学生をアシスタントとして利用することが容易で、一般向けの IT 講座の場合、非常に効果がある。パソコン操作のレベルの違いで遅れ気味の受講者へのフォローをアシスタントが担ってくれることで、講座全体を比較的スムーズに運営することが可能となる。

初めて夜間の講座を開講した平成 15 年度では、各回の終了が 21:00 頃になるため、学生のアシスタントの利用を控えていた。その結果、受講者一人一人のフォローも含めて全て一人で行わねばならず、スムーズな講座の運営が出来ない状況となってしまった。

そのような状況は、あらかじめ予測してあることであり、そのために、かなり人数を絞って開講した。しかし、申し込み時の情報だけでは、パソコン操作レベルを均一にするような受講生の絞り込みは不可能に近く、実際にはかなりのレベルの違いがあった。

それが、12回続いたわけであるから、講座内容の部分変更をしながら進めざるを得ない状況であった。

## (2) イブニング講座の改善 (平成16年度)

前述の通り、平成15年度の夜間IT講座は、問題点を含む状況ではあったが、受講後のアンケートによる評価はよく、次の開講を望む回答が多かった。また、平成16年度の夏に実施した、短期のIT講座(公開講座)でのアンケートでも要望があったこともあり、平成16年度も秋に夜間講座を実施することにした。

しかし、前年度の問題点は解消しておかなければならない。そのために、平成16度には、以下の改善策を講じた。

- ① アシスタントの利用・・・2名のアシスタントを利用した。
- ② 講座内容の分割化・・・全12回は、昨年度と同じであるが、大きなテーマを3つ設定し、各々4回で完結とした。(テーマ単位での受講も可能とした)

実際には、1)インターネット入門、2)MS-Excel入門、3)MS-Word実用の順で行った。以下に各々のテーマの概要を述べる。

### 1) インターネット入門

インターネット入門では、簡単なマウス操作の説明をした後、WWWの利用を中心とした講座である。検索エンジンの基本的な使い方、特定目的のサイトの使い方、ホームページ上のデータの取り込みやホームページのプリントアウトなどを中心として、演習を交えながら進めていく。

### 2) MS-Excel入門

表計算ソフトの基本を説明し、MS-Excelの基本操作を中心とした講座である。ワークシートおよびセルの概念、セルへのデータの入力、計算式の入力、関数の基礎、グラフの基礎などを中心として、演習を交えながら進めていく。

### 3) MS-Word実用

ワープロソフトの基本的な操作を簡単に説明して、具体的な3つのサブテーマに基づいて作品を作成していきながら進めていく講座である。

まず、ポストカードの作成で、画像の取り込みやテキストボックスの利用を演習する。次に、「町内会のバザーの案内」を想定したチラシの作成で、ワードアート、オートシェー

プ、ページ罫線などを新たに加えて仕上げていく。

最後に、「家族新聞」をテーマにした簡易新聞の作成を行った。

講座内容を分割させたため、全体として長期であっても、3つのテーマをそれぞれ4回で完結させることにより、連続する短期のプログラムとして実施することが可能となる。

また、受講は個々のテーマ単位での受講を可能とすることで、受講者自身がテーマを選択することが可能となる。

テーマの実施順序については、キーボード操作量が少なく想定できるテーマ順に実施をした。これは、これまでIT講座を行ってきた経験に基づいて決定したことである。「キーボードからのデータ入力ができる」といっても、その操作スピードにはかなりの個人差がある。それに対して、マウス操作については、操作スピードに個人差はあってもキーボード操作に比べるとそれほど大きくはならない。

過去の講座で、「難しくて、講座についていけない」と感じている受講者は、講座内容が高度すぎると感じているのではなく、「講座進行のスピードについていけない」と感じている場合が大半であった。演習をする際、時間内にこなせきれずに、講座は次の内容に進んでいる、という状況が続くことにより「ついていけない」と感じるのである。

そのため、操作時間で個人差が顕著に表れ難いマウス操作中心の講座から実施したのである。

#### 4. イブニング講座実施結果（平成16年度）

前章で述べた改善策を講じて、平成16年の10月から12月までイブニング講座を実施した。以下にその際の受講者の情報と実施した結果を述べる。

##### 4. 1 受講者について

講座終了時に受講者に対してアンケート調査を実施している。そのアンケートでは、年齢層や性別等のプロフィール以外に、講座の情報源、受講目的、受講満足度、今後の要望、等を調査している。

このアンケート調査は、全ての講座で実施されている。平成16年度のイブニング講座のアンケート結果のデータを中心として、IT講座受講者の状況を整理する。

##### (1) 受講者の年齢層

地域住民に対する告知方法は、これまでと同様、他の講座と共通の広告媒体を利用した。

受講申し込みは48名で、年齢を基に35名に絞った。前章で述べたとおり、3つのテーマ単位での申し込みを可能としていたが、ほとんどの申込者が全テーマの申し込みをしていた。また、申し込み時には特定テーマを申し込んでおいて、結果的に全て受講した受講者もいた。その逆に、全テーマを申し込みしておいて、1つめのテーマ終了段階で受講を断念した受講者もいた。

図4-1は、受講者の年齢層別人数である。

図4-1より、受講者は40才代以上の中高年齢層で占められていることがわかる。70才代の人数が少なくなっているが、最終的に受講者を絞る際に除外対象としたのが70才代の申し込み者であったため、それを考慮すると受講希望者は中高年齢層に偏っていることがいえる。

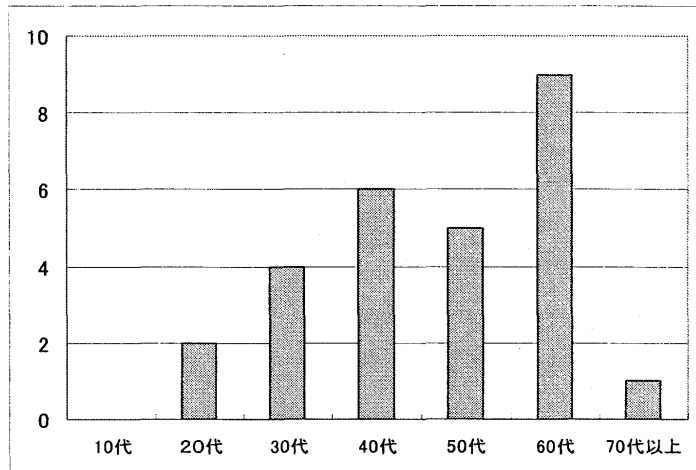


図4-1 夜間IT講座受講者の年齢層別人数

## (2) 講座の情報源

図4-2は、受講者がどの講座の情報源をもとに申し込みをしたか、という点について、まとめた図である。新聞の折り込みチラシをもとにした受講者が圧倒的に多いことがわかる。講座の情報源は、夏の公開講座の際もほぼ同様の傾向であった。

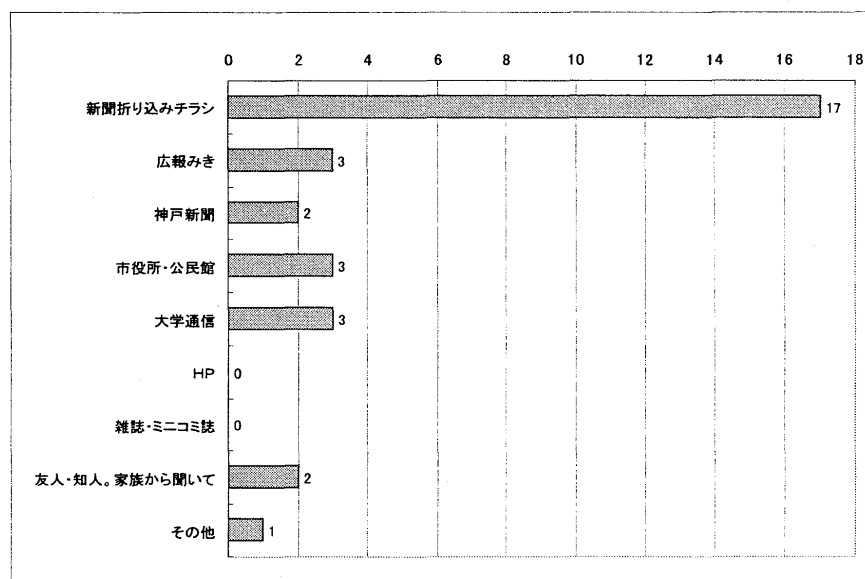


図4-2 講座の情報源

(2) 講座の受講目的

講座を受講した目的であるが、この設問の回答は自由記述方式であるので、それらを表4-1の「分類項目」に示す通りに分類して集計をした。図4-3は、それをグラフ化したものである。(夏の公開講座におけるアンケート結果も同じように集計をした。)

表4-1 IT講座受講目的

	分類項目	公開講座	イブニング講座
1	PCを使いこなせるように	0%	30%
2	自宅PCの有効利用	25%	17%
3	PC基礎を学びたい	49%	17%
4	系統的に学びたい	0%	9%
5	仕事・必要	13%	9%
6	インターネット	5%	0%
7	その他	7%	17%
	計	100%	100%

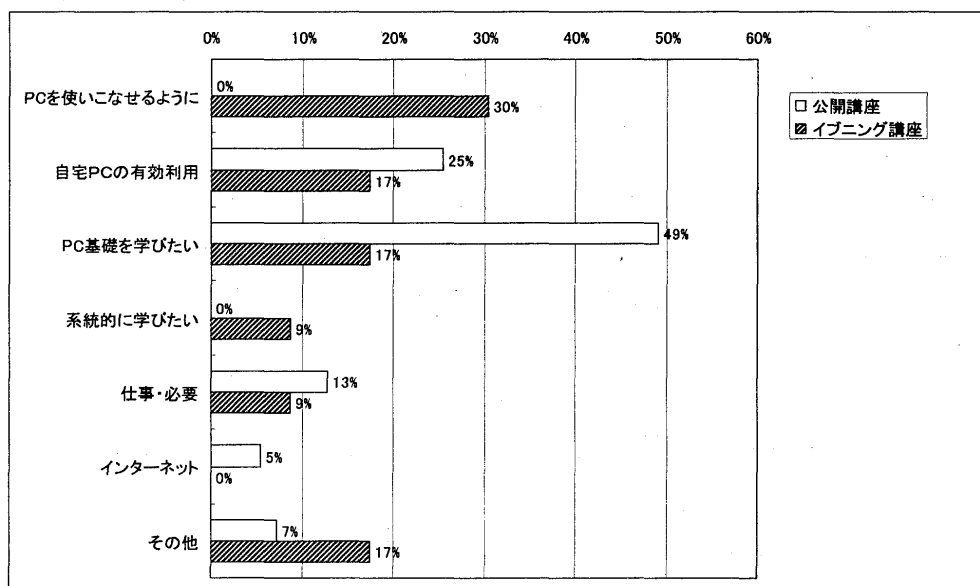


図4-3 IT講座受講目的

「その他」の項目は、回答内容的には公開講座、イブニング講座共通しており、「時間ができたから」、「近い」、「安価」などの回答であった。

表4-1および図4-3より受講目的に関しては、イブニング講座と夏の公開講座時とは大きく異なる傾向があることがわかる。

公開講座では、半数近くの受講者が「PCの基礎を学びたい」という受講目的を持っているのに対し、イブニング講座では、「PCを使いこなせるように」という受講目的を持つ

ている受講者が相対的に多い。つまり、イブニング講座ではスキルアップを目的としている受講生が多い、ということである。しかも、公開講座での「PCを使いこなせるように」という回答は0%である。

ここで、注目したい項目は、「自宅PCの有効活用」の回答分類項目である。数年前までのIT講座では、このような回答はほとんどなかった。

受講年齢層は、以前と対比すると高年齢化していることは、既に述べたとおりであるが、にも関わらず、PC所有者が増加し、IT操作に対する関心が向上してきている現れであると考えられる。

#### 4. 受講後の満足度

全講座終了時点で実施したアンケート調査の中で、講座の満足度を、満足(4)、やや満足(2)、やや不満(3)、不満(1)の4段階で評価してもらっている。イブニング講座以外の昼間に実施する講座(公開講座)も継続的に開いており、同様のアンケート調査を行っている。

図4-3は、講座満足度の段階別評価分布を公開講座とイブニング講座の双方をまとめたものである。

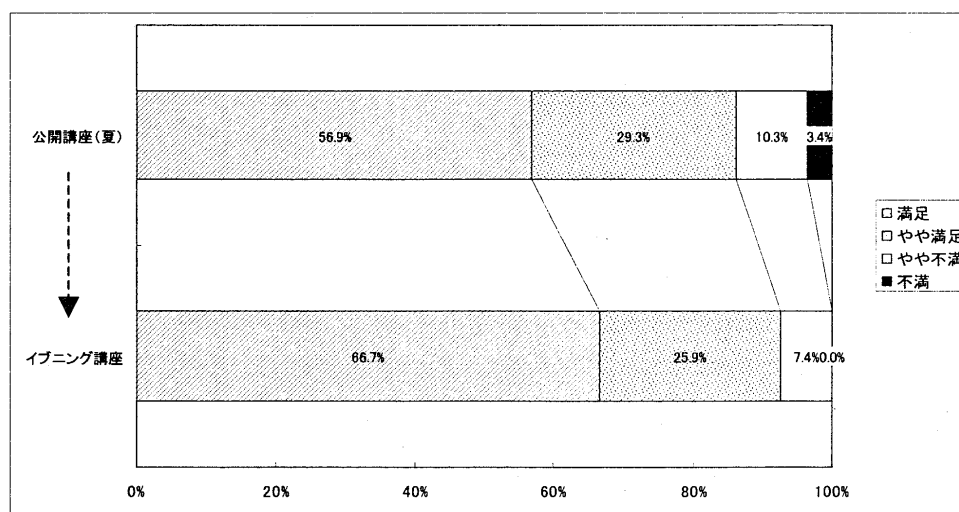


図4-3 受講後の満足度

図4-3より、短期間の公開講座よりイブニング講座の満足度がよいことがわかる。

受講者個人の満足度評価値をスコアとした場合の平均値は、公開講座では3.2、イブニング講座では3.6となっている。また、イブニング講座では、「不満」の回答は0件であったことからイブニング講座の満足度が高いことがわかる。

しかし、イブニング講座はその講座内容を3つのテーマに分割して行ったが、ほとんどの受講者が全テーマを受講していたためアンケート調査は最後に1度実施したのみである。個々のテーマごとにアンケートを実施した場合は、異なる傾向の結果となる可能性もある。

## 5. 今後に向けて（教材コンテンツ化）

受講後のアンケートの中で、「今後の希望」に対する設問があるが、この設問も自由記述である。さらに、具体的な要望から抽象的な要望まで、さまざまな回答であり分類して集計することは困難であった。

回答内容を集約すると、「同内容」、「次のステップ」、「新しい情報技術の利用」ということになる。（ただし、文章での回答であり、受講目的ほど個々の回答が必ずどれかに当てはまるというものではない。）

「同内容」というのは、「同じ内容を希望する」という内容ではなく、「同じ内容でも再度受講する」という主旨の内容であった。

傾向としては、「次のステップ」の希望が目立ったが、そこで、問題となるのは、受講者のレベルの差により「次のステップ」自身のレベルもかなり異なっている、ということである。したがって、単純に「今年度の次のステップを企画すればよい」というわけではないと考えている。

そこで、今回のイブニング講座用に作成した教材をWeb上のコンテンツ教材として再構築し、一般向けに公開をする計画を進めている。それにより、あらかじめ講座内容の詳細を知ること、受講申し込みを決める判断材料を提供できることになる。

また、講座内容が基礎的な内容から応用的な内容までさまざまであるため、その教材コンテンツを公開することにより、学生に対する自習用コンテンツとして利用させる可能性がある。

## 6. 終わりに

パソコンの低価格化や高性能化が進み、マルチメディア技術の進歩、インターネットの普及率の向上等も大きく関連して、パソコン利用者数も爆発的に増加している。

大学が地域住民に対して提供しているIT関係の講座の受講者も年々増加傾向にある。しかも、受講者の高齢化も顕著になってきている。

そこで、平成15年度から、毎週1回で全12回の夜間IT講座（イブニング講座）を実施した。長期間で夜間ということもあったが、受講申し込みは募集人員を上回る状況であった。平成15年度の実績をもとに確認できた問題点を解決する方策を講じて平成16年度もイブニング講座を実施した。その結果、同年夏に実施した短期の公開講座と比べて受講満足度は高い結果であった。さらに、使用した教材コンテンツをWeb上のコンテンツ教材として公開する計画を進めている。

### <参考文献>

1. 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 監「ナレッジサイエンス」2002, 紀伊國屋書店
2. 前野和久著「情報社会これからどうなる」1987, PHP 研究所